

青少年健全育成条例改正案に関する陳情書

平成 22 年 12 月 11 日提出

東京都議会 議長
和田 宗春 様

郵便番号 ■■■■-■■■■■
住所 大阪府■■■■■■■■■■番■-■■■■号
氏名
電話番号 ■■■■-■■■■■-■■■■■

<陳情要旨>

都において『青少年健全育成条例の一部改正する条例案』を否決していただきたい。

<陳情理由>

はじめまして。大阪府で会社員をしております、■■■■と申します。

6月には東京都青少年健全育成条例の改正案を否決いただきましたこと、誠にありがとうございました。今回また新たに提出された改正案が可決されそうな事に対して、非常に不安を感じており、陳情書をお送りさせていただきました。

まず第一に、前回否決された条例案とほぼ同じ内容であり、問題視された「非实在青少年」の言葉を削除することで、更に規制の範囲を広げているということ。一度否決したものを、可決されるまで何度も繰り返し提出し、深い議論も行わないまま押し通そうとする行為は、民意を否定するものであると考えます。

第二に、日本国憲法で定められた「表現の自由」を脅かす可能性を、多大に孕む内容であるということ。主要な出版社が東京都に集中している現状、この条例は憲法と同等の執行力をもつ重大な決定となりますことを、議員の皆様方にも今一度ご自覚いただき、慎重な判断をお願いしたい。また憲法に「表現の自由」「検閲の禁止」が明記されるに至った、過去の歴史をお考えいただきたい。

第三に、現実の児童を救う手立てには一切ならないこと。出版物におけるフィクションが犯罪者や反社会的な行為・思想を生み出すという、科学的根拠やデータの裏づけがない限り、感情論や生理的嫌悪感からくる規制推進としか考えられません。このために割かれる予算や人員を、実在の児童育成や保護のためにこそ充てていただきたい。

以上のような理由から、今回の改正案は廃案にしていただき、改正に関しては冷静かつ十分な議論が議会と関係者間で行われるよう嘆願いたします。

お忙しい中、最後までお読みくださりありがとうございました。
末筆ながら、和田様の今後の一層のご活躍をお祈り申し上げます。